



長島ダムがおもしろい！

長島ダムは、「地域に開かれたダム」として、大井川という資源で結ばれた流域の自治体や住民の水資源の確保や利水を促し、大井川を軸としたブランド確立を目標に地域活性化を行っています。

今年の7月には、町内外の住民の交流が期待されている「森と湖に親しむ旬間」の開催を予定しています。ダムの役割を学習しながら、周辺資源の散策を同時に楽しむことができる、観光と教育を兼ねた事業です。町外からの参加者も多く、地域の人との交流が盛んになる画期的なイベントといえます。

また、普段から事前予約制でダム内部の見学ツアーを開催したり、町やエコテイクワネなどの団体と連携して、イベントの運営やカヤック・SUP愛好者のための湖面利用に協力しています。

● 森と湖に親しむ旬間のご案内 ●

森林や湖に親しむことで心身をリフレッシュしながら、森林やダムなどが持つ自然豊かな空間や、社会生活に果たしている役割について理解を深めてもらうイベント。(新型コロナウイルス感染症のまん延状況により、中止する場合があります)

- ▶ 2022年7月21日(木)～31日(日)
- ▶ 内容 ① ダム内部の見学ツアー
② ダム湖の巡視体験 ほか

▶ 最新情報は、長島ダムの公式ホームページでご確認ください。



地域の皆さん！
ぜひご参加ください

今回取材をした皆さんに「関係人口を増やすためには」と問いかけると「町を訪れる人に、川根本町を自信を持って好きだと伝えること」と口をそろえて話します。「この町では当たり前のことが、若い人や移住者には新鮮な魅力になっている。その魅力を発信する活動を継続すれば関係人口拡大につながるはず」と続けます。

地域の活性化を目的に、関係人口の拡大を図るときに重要なことは、地域内外の人が互いに積極的に関わり、「町の魅力や欠点」を共有すること。来町者の多様化するニーズに合うものを提供していくことが必要です。

地域に若い世代や新しい発想を受け入れることは決して簡単なことではありません。ですが、関係人口に当たる人たちは、地域への情熱や愛着を持っている人たちといえます。地域の魅力発信と住民との継続した関係づくりが、関係人口の創出と拡大に必要なことではないでしょうか。

関係人口のこれから



平成28年に誕生したエコテイクワネは、川根本町の魅力を町内外に伝えるため、町の自然を活かした観光事業に取り組んでいます。その中で、農林業や商業などの地域産業と連携を図りながら町全体の活性化に努めています。

町の自然を活かした体験型ツーリズムは、川根本町の観光の目玉事業。特に長島ダムの周辺資源を活かした環境学習や散策、水上アクティビティにはリピーターが集まっています。

エコテイクワネでは、イベント開催時に少人数の参加者に対してガイドを配置し、対話ができる関係を心がけています。親密なガイドを重ねることで、安心感や親近感を持って再来してもらえるように実践しています。

同団体では、これまで積み上げた観光ガイドの技術やノウハウを教える「ガイド養成講座」を開催しています。町全体に来町者が満足する「おもてなし」が広がれば、川根本町のリピーターが増え、熱狂的なファン獲得につながり、関係人口の拡大が大いに期待されます。

関係人口拡大の鍵は、川根本町を「好きになる」と「川根本町を誇りに思い「伝える」ことが新しい関係人口を生み出す

エコテイクワネの活動の成果が実る

● 令和3年度手づくり郷土賞受賞 ●

- ▷ 『手づくり郷土賞』は社会資本と関わりを持つ地域作りの優れた取り組みを国土交通大臣が表彰するもの。
- ▷ 接岨湖を利用したカヤック体験やSUP、ダム周辺の散策など自然鑑賞会を実施。町の関係団体と連携して、流域住民や町内の子どもたちに大井川の恵とダムの役割を教える。

▶ 表彰状を受け取った声沢哲哉さん(中央)



訪れる人に川根本町の魅力を「教える」のではなく、体験を共有して、「感じる」ことが大切

エコテイクワネは、設立当初から「町の魅力」を共有することを大切にしています。お客さま自身が特別感や幸福感を感じてもらえるように「おもてなし」精神で接するようにすれば、町に親近感を抱いてくれて、「もっと町を知りたい」「また行ってみたい」につながるはずです。(声沢さん)

エコテイクワネ
声沢 哲哉さん(右)
丸野 宏夏さん(左)

